

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年11月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4795500042
法人名	(有) 新正クリーンサービス
事業所名	グループホーム みなみ
所在地	沖縄県宮古島市平良字下里3107-364 (電話) 0980-72-0975

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成 19年 11月 15日

【情報提供票より】(19年 9月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 1月 15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(9月 20日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 76歳	最低	58歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	うむやす・みやあす・ん診療所 永和歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ゆったりした敷地に白い建物の「グループホームみなみ」。集合住宅や警察寮更に小学校に隣接し、時々児童の声が聞こえてくる。元気で安全を保障された場所に、今年1月に開設した。各部屋とも明るくバリアフリー化され、住みやすい環境である。代表者や職員が、利用者の尊厳を理念とし、安心・安全を心がけて支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は初めての評価調査となるので改善対策はない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価をするに当たって、代表者や管理者、職員の意識の向上を促すことができた。理念を再認識し、今後の取り組みに活かしつつある。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>開設後1回の開催で利用者が少なく「利用者を増やすには」の議題となり、取り組んだ結果 現在は定員を満たしている。運営推進会議を、今後定期的に開催し、委員に家族代表更には 女性の参加が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に意見を聴くように努め、ミーティングで家族等の意見が反映されるよう、話し合う体制ができています。ホーム便りの発行を予定しているため、今後に期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学校の運動会を見学したり、幼稚園児が慰問に来り、又警察寮の方が時々声を掛けて、援助の申し出をしたり、地域との交流を深めつつある。今後自治会の行事に積極的に参加していきたいとの事。期待したい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を常に心がけ、住み慣れた地域の中で安心して暮らせるように、事業所職員全員で、環境作りに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングノートや申し送り簿で、時折理念に触れており、具体的な実践に向けた取り組みが記録されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会を見学したり、幼稚園児が慰問に來り、又近隣の警察署の方が時々声を掛けて、援助の申し出をしたり、地域との交流を深めつつある。	○	今後自治会の行事に積極的に参加していきたいとの事で期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者、管理者も参加しての申し送り簿に、自己評価に関する事項をその都度取り上げ議論し、具体的な改善に向けて取り組んでいる。参加者のサインもあり、職員への浸透も図っている。外部評価に対しても、意欲的な向上心が窺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設間もない時期の1回の開催で、利用者の入所等に関する内容で終わっている。会議での取り組みは活かされて、現在定員を満たしている。	○	運営推進会議の積極的な開催と家族の代表や、女性委員の参加を希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>代表者は、市の福祉課と定期的に、入居状況や事業報告を行いながら、情報交換を密にしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の家族が来訪時に報告の機会を持っているが、又電話での報告もしている。</p>	○	<p>職員がホーム便りの作成を予定しているので、定期的に家族に配布することができるよう希望する。</p>
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の家族と話やすい関係作りに努め、来訪時に意見を求めている。家族の意見や質問に対しては、誠意をもって答えている。即答できないときは、ミーティングで話し合い、運営に反映しつつ、家族への報告をしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動時には、利用者の不安を解消する為に、新しい職員が慣れ、受け入れてもらえるまでは、管理者が同行し日々のケアに当たっている。受け入れられた事が確認できれば、それぞれ個別対応をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内での勉強会を時々行っている。(記録で確認できた。)外部の研修にも積極的に参加出来る様に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>開設間もない現状を踏まえつつ、近くの同業者と情報交換の場を設けたり、時には電話で連絡を取り合い、相乗効果を高め、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が入所の際は施設(入院先等)から直接ではなく、一度自宅に戻り、家族と話し合ってから入所する事と、本人が慣れるまでは、頻回に家族に来てもらえるように協力を求め、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が毛筆で書いた理念を、事務所入口に掲示したり、編み物の得意な利用者から、職員が教わったりしている。又壁の掲示物も一緒に作成したり、洗濯物をたたんだり、和やかに過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全盲で会話も難しい利用者の入所がきっかけとなり、一つ一つの行動に対し、表情をよく観察し、細かい配慮ができるようになった。入浴嫌いだっただ利用者、細かい配慮の声かけで、入浴が好きになった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別記録に時間を追って、日々のケアが記載されているので、それを基に家族の意見も取り入れながら、利用者の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のケアをしている内に、ADLの向上に繋がる利用者が多く、その都度現状に即した介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望により、外泊する事もあり、又本土から見えた娘さんが、利用者のお部屋と一緒に宿泊する事もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの担当かかりつけ医を大切にし、連携をとりながら、外来受診の送り迎えの支援もしている。調査当日も協力医療機関以外のかかりつけ医が訪問し、診療後は歌と三味線で利用者等と楽しんでいた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は看護師の配置がないので、重度化や終末期への対応が難しい事を入所時に本人や家族に伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録簿等の保管は徹底されている。利用者ひとり一人への言葉かけにも配慮がみられ、全盲の利用者に対しても、さりげない誘導の工夫がみられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	比較的要介護度の高い利用者が多く、食事や入浴介助に手がかかるにもかかわらず、ひとり一人のペースに合わせて、ゆったりと支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根とり等手伝っている。芋の煮っ転がしや宮古そば等、利用者の好みに合わせたメニューの工夫がみられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と午後の1日2回も入浴の予定をする程、いつでも利用者のペースに合わせて入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の得意な利用者には自分の部屋の掃除や洗濯物たたみ等、役割を楽しみにしている。毛筆の得意な方には、掲示物を書いてもらったり、又編み物をしている方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地が広いので、庭に出て草取りをしたり、外出希望者に対しては、施設長と連絡をとり20分程度のドライブに出かける事もある。又近くの小学校まで散歩に出かけることも ある。(学校の許可も得ている。)		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵の設置はなく、日中は玄関に鍵をかける事はなく、見守り体制ができています。(防犯の為21;00には玄関の鍵をかける。)		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の職員の対応(手順や担当する利用者)について把握している。開設1年目の為、非難訓練を未だ実施していない。	○	消防署員を招いて、近日中に防災訓練を実施する予定との事なので期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスと食事摂取量の管理はできているが、水分の摂取量の管理が不十分である。出来るだけ水分の補給を心がけてはいるが、具体的な管理には到っていない。	○	特に夏場は脱水に気を付けなくてはならない。人工透析を受けている利用者や水分補給を嫌がる利用者もいるので、個人個人の摂取量を職員間で把握できるように工夫してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の周りはゆったりとしており、草花も植えつつあり、隣接する小学校からは児童の笑い声も聞こえてくる環境にある。建物は建築間もないので、明るく風通しもよく、きれいである。天窓も作られており自然の採光が入るように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの希望により、ベットを使用したり、畳間にしたりそれぞれに対応している。本人の希望や家族の希望をうまく取り入れて、過ごしやすい工夫をしている。		